

【第4分科会】組織・運営に関する課題

<p>提言1 研究主題</p>	<p>非常変災等における危機管理体制と教頭の役割（武雄市内小・中学校での危機管理体制に見直しを通して）</p>
<p>提言者</p>	<p>武雄市立武内小学校 教頭 山領 ひとみ</p>
<p>協議内容</p>	<p>【グループからの報告】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 受け渡し訓練を中心に協議を進めた。多久中央校では、避難訓練時にマイクロソフトのチームズを活用した。思斉小では町作り協議会と協力して行うことでスムーズに実施できた。また、地域の危険箇所については、詳しい情報を得ることができた。同じ校区内の小中で避難訓練について情報共有はとても有効であった。 ・ 受け渡し訓練について取り組み、状況を出し合った。日曜参観や土曜参観後に訓練を実施した車の渋滞等が課題であった。平日は父母が仕事のために祖父、祖母のメール登録が必要ではないかということも分かってきた。 ・ 地域との連携について、Dグループ内では自治公民館との連携はなかったので連携の方法を教えてほしい。（回答）自治公民館ではなく、公民館。武雄市は公民館との連携が強い地域である。 ・ 防災教育について総合的な学習について取り組んでいる時数がどうなっているか教えてほしい。（回答）学期ごとに2～3時間を設定している。 ・ 4地域の特徴について話し合った。一つは、地域の実態に合わせて、学校運営協議会や市町村全体と一っしょになった避難訓練を実施する必要性が話題となった。もう一つは年間行事に位置づけ、定期的に行うことで職員の意識改革や負担軽減につながっていくことが話題に上がった。
<p>提言2 研究主題</p>	<p>地域連携における教頭のかかわり（家庭や地域社会との継続的な連携・協働を可能にする組織づくり）</p>
<p>提言者</p>	<p>白石町立有明西小学校 教頭 吉田 修</p>
<p>協議内容</p>	<p>【グループからの報告】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小規模校は、地域連携は当たり前。やることが限られている。充実すればするほど業務が増える。バランスが大切。話し合いの時間を繰り上げる。また両方がメリットのある活動にする。 ・ どのような組織が学校を支えているのか ・ 信頼関係作りが大切 ・ 学校外への呼びかけ、広報活動が大切 ・ 地域に対して感謝の気持ちを持つこと。それを形として表す活動を大切（感謝の会）にしている。 ・ コミュニティスクールがあることで、地域の力を借りたいときにスムーズに進められる。 ・ 整理して活用すると負担が少なくてすむ ・ 地域との深まりのある関わりがある ・ 教頭は窓口になることがあるのでその役割を果たすのは大切だし、必要。ただし背負い込ま

	<p>ないように協力を得ながらやっていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の方々は協力的な学校が多い ・ 教頭としては年間行事を確認する。組織について把握する。お互いのメリットがある関係が必要。地域の方にコーディネートをしてもらうことも大切でないか。 ・ 連携を負担に感じることもある。理由は学校主体で行っていること。多くの準備が必要になるため。コロナの感染対策もその一つ。バランスがうまくとれていないと学校負担は大きくなる。
指導助言者	<p>学校教育課 プロジェクトE推進室 指導主幹 吉永 淳一 様</p>
助言内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 負担感や教育効果はバランスが大切である。このバランスを考えることが管理職の仕事であるし、教頭の仕事である。 ○ 防災について3つの知が大切である。「専門知」「経験知」「地域知」「専門知」とは市町の役所としっかりと連携をとる。「経験知」とは訓練を行っていき、アップデートを行っていく。「地域知」とは地域の特性や連携をしっかりとしておくことである。また、デジタルの活用を取り入れていくことが大切である。 ○ 教員の負担をとると教頭の負担感が増える。教育効果について話し合う必要がある。 ○ 負担と捉えるのか、やりがいと捉えるのか。 ○ 地域との関わりが大切→それが負担となっている。 ○ 教頭が窓口にならないとうまく回らない。教頭が窓口の方が地域としては安心する。 ○ 地域のことを知っていくことは大切。年間計画の見直し、再確認をするよい機会。 ○ 活動の目的を地域の方と共有できるかが鍵となる。 ○ 地域の方とベクトルを合わせる。学校の困り感と地域の新設間がマッチするとよい。 ○ コミュニティスクールは、座長を誰にするか。 ○ 学校と地域の両方にメリットがある活動 ○ スクラップを常に考えていることが大切。 ○ 地域連携を進めるためのコーディネーターが大切。